

## 愛媛県町村議会議長会

### 事績1 政策づくりと監視機能を十分に発揮

#### (1) ケーブルテレビの活用

平成23年3月議会より、定例会本会議の生中継を開始している。臨時会は内容を精選し編集したニュースとして宇和島ケーブルテレビで放送している。

また改選を機に、議員間で協議を行い、平成27年9月議会から、「広く町民に関心を持ってもらい“住民に開かれた議会”を目指す」ことを目的として、常任委員会を議場で開催し、宇和島ケーブルテレビで委員会審査の様子を生中継している。

これにより町民からの意見なども多く寄せられるなど、「住民に開かれた議会」を目指す上での一助となっている。

#### (2) ホームページ、町広報紙、防災無線の活用

平成27年5月より、議事録作成支援システムを議会事務局に導入。システムを利用することにより、本会議及び常任委員会の会議録を速やかに作製し、町ホームページへ掲載している。町民が親しみやすく、誰もが閲覧することのできる環境づくりに努めている。

また本会議の前日夜及び当日の朝、委員会においては当日の朝に、議場での議会の傍聴やケーブルテレビでの中継の視聴を防災無線により広く町民に呼びかけ、議会へ興味・関心を持ってもらえるよう働きかけている。

町広報紙「広報まつの」には、一般質問の要旨や議決結果を掲載しており、町ホームページを閲覧できない環境下の町民にも議会の様子を知らせている。

#### (3) 常任委員会による詳細な審査の実施

愛媛県最小の小規模議会であるが、全議員が所属する二つの常任委員会を設置し、委員会主義による積極的かつ詳細に案件の審査を行っている。

#### (4) 全員協議会の随時開催

本会議の前には、案件などについて報告、説明を受け、本会議に向けた準備の場を設けている。

また、随時全員協議会を開催し、議員間で活発な議論・討論を重ねている。

#### (5) 全議員による視察研修の実施

小規模議会ならではの特性を生かし、毎年特別旅費を予算化し全議員による先進地への視察研修を行い、今後の政策提言に向けた調査、研究を行っている。

平成30年豪雨災害では、死傷者こそ出なかったものの、当町においても住宅半壊93件、床上浸水37件、床下浸水92件、一部破壊2件という甚大な被害を受けた。

この災害を教訓とし、新たな自然災害に備え、防災意識の向上や防災・減災対策の提言を行うため、令和2年1月に、香川県直島町でタブレット端末を利用した情報伝達システムについてなど、防災をテーマとした行政視察を行い先進地での研修を行った。そのほか兵庫県淡路市の北淡震災記念公園などをあわせて視察した。

#### (6) 地方創生特別委員会の設置

平成27年3月議会において、地方創生総合戦略について、二元代表制の一翼を担うべき議会においても自らが政策に参加し、提案すべく、当町の創生と興隆に寄与することを目的とした「森の国地方創生特別委員会」を設置。地方創生に関する事業についての調査・研究・検討を行った。

この「森の国地方創生特別委員会」において、平成27年12月には、町議会などの仕組みについて実体験をとおして学び、町政に対する理解と関心を深めてもらうため、また町内の子どもたちの意見や提言を町政に反映させることを目的に、「森の国まつの子ども議会」を開催した。

当日は松野中学校より選出された生徒9名が参加し、子ども議員がまとめた意見や質問を一般質問（事前通告）として発言、子ども議員ならではの視点での活発な一般質問となった。

また、町内の各種団体から多様な意見を聴取することを目的として、特別委員会が住民懇談会を開催した。平成27年7月から10月の期間に、団体と意見交換を行った。

これらの活動をとおして、森の国地方創生特別委員会として、住民からの意見をまとめ「地方創生の推進に関する提言書」を作成し平成28年1月、町長に提出した。

#### (7) ICTの活用

平成27年5月よりいち早くタブレット端末を導入し、事務連絡等のもとより、非常変災時において広く活用している。

また、新型コロナウイルス感染症拡大により参集できない状況下において、ZOOMを利用したオンライン会議を開催。状況に応じた安全な会議の運営や活動の維持に努めた。